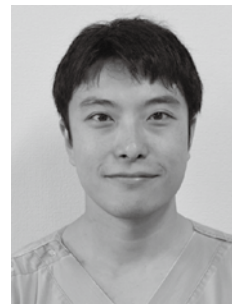


ASAIO 62nd Annual Conference 参加印象記

国立循環器病研究センター人工臓器部

飯塚 慶

Kei IIZUKA



ASAIO 62nd Annual Conference は、2016年6月15日～18日に米国サンフランシスコで開催された。会場の Hyatt Regency San Francisco は、サンフランシスコ一番の大通りである Market Street に面し、裏手には大きなフェリー乗り場のある非常に賑やかな地区にあった。少し歩けば Union Square や China Town といった観光名所が数多く存在し、またケーブルカーに乗れば PIER 39 や Golden Gate Bridge にも近く、夜になっても人通りは絶えることがない。ただし、どこへ行くにも急勾配の坂道が出迎えてくれるのは、サンフランシスコ名物と言っても過言ではないだろう(図1)。

本大会の前日にあたる15日には、ECMO (extracorporeal membrane oxygenation) コースと Pediatric コースに分かれての lecture および session があった。筆者の参加した Pediatric コースでは、小児 VAD (ventricular assist device) における高い合併症率をいかにして改善し、乗り越えるかが一番の焦点であったように思う。米国では日本よりも短期・長期ともに使えるデバイスが多く、デバイス選択の幅があるものと考えていたが、小児期と成人期をつなぐデバイスの不足や、患者の体格による問題点などが盛んに議論されており、日本と同様の悩みを抱えている様子が印象的であった。

16日～18日は、大会長の講演や Top Graded Abstracts を中心とした general session のほか、cardiac, pulmonary, renal, pediatric, bioengineering, VAD などの各分野に分かれた Session が催され、活発な議論が繰り広げられた(図2)。また加えて、ポスターでも約120題の演題が発表

された(図3)。筆者は心臓血管外科医であるため、主に Cardiac および VAD の分野の Session を拝聴した。

心・VAD 関連の演題では、全体的な臨床成績に関してある程度の安定が得られているのを反映してか、問題のある症例をどう予測・評価するかという視点での発表が多く見られた。特に右心不全に関する話題が多く、有用な予測因子の探索や RVAD (right VAD) に適したデバイス選択などに関する研究が議論の的となった。

新規デバイス開発の面からは、前述の「小児期と成人期をつなぐデバイス」や RVAD としての適応をターゲットとした、比較的小型で低侵襲を目指したデバイスに関連した



図1 サンフランシスコ名物の急峻な坂道

■ 著者連絡先

国立循環器病研究センター人工臓器部
(〒565-8565 大阪府吹田市藤白台5-7-1)
E-mail. kei.iizk@ncvc.go.jp



図2 プレゼンテーション会場の盛況な様子



図3 連日盛況のポスター会場
中央は筆者の発表ポスター。

研究が目についた。ただし、印象としては新規開発に関する研究が例年より少なく、大手メーカーのデバイスのアメリカでの治験終了を待ちながら、水面下よりじっと様子を伺っているような慎重さが垣間見えた。

2017年のASAIO 63rd Annual Conferenceは6月21日～24日、米国シカゴでの開催が予定されている。その頃には

現在進行中の治験成績などが発表され、また新たな旋風を巻き起こすかもしれない。そうした期待とその旋風に負けないような力強い研究発表を手に、また来年も参加したいものである。

本稿の著者には規定されたCOIはない。